水曜通信 6

2017年
10月

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

第 6 回水曜礼拝（公開大学礼拝）
2017年10月18日（水）18:30-19:00

説教：吉田 新（本学准教授）
奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

＜礼拝次第＞

前　奏：J.S.バッハ「主なる神、我らの側にいまさずして」
　　BWV 1128
讃美歌：270番「しんこうこそ　たびじをみちびくつえ」
聖　書：ルカによる福音書11章33-36節
讃美歌：291番「しゅにまかせよ　ながみを」
説　教：「まことを見る目」
祈　祷
頌　栄：541番「ちちみこみたまの」
後　奏：J.S.バッハ「いと高きところの神にのみ栄光あれ」
　　BWV 715

後奏の後、19：10から礼拝堂において、グリークラブとグリークラブOB会の合唱による讃美があります。

９月から水曜礼拝は第３水曜日となっています。
次回第７回水曜礼拝は**11月15日**です。

第５回水曜礼拝報告（説教：佐藤司郎、奏楽：小野なおみ）

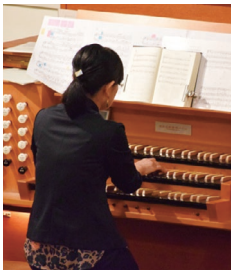
2017年9月20日（水）18：30－19：05

讃美歌：39番「ひくれて　よもはくらく」
聖　書：マタイによる福音書６章25-34
讃美歌：222番「あめなる　つかいのうたは」
説　教：「思いわずらうな！」

【説教要旨】

あれこれと人に気遣い、あれこれと自分を反省し、毎日バタバタ生きているわれわれ現代人に、イエス・キリストは「思い悩むな」（口語訳「思いわずらうな」）と語っておられます。純一に、単純に、ただ神の国と神の義を求めて生きよと命じておられます。自分のこころをのぞき込んでばかりいないで、空の鳥に野の花を眼を向けてみなさいと言われます。そこに神の恵みのご支配があるとすれば、その恵みは、あなたの生活も、あなたのこころも、あなたの人生もつらぬき、支配していないはずはないのだから。　（佐藤司郎）

前奏：C.-M.ヴィドール「オルガン交響曲第５番」より“第４楽章 アダージョ”
後奏：E.エルガー「晩祷のヴォランタリー Op.14」より“８ポコ・アダージョ－コーダ”



【前奏、後奏曲解説】

C.-M.ヴィドールは19世紀後半から20世紀にかけ、パリのサン・シュルピス教会のオルガニストやパリ音楽院の教授として大変活躍しました。エルガーはヴィドールと同時期にイングランドで活躍し、オルガン曲も数は多くありませんが素晴らしい作品をのこしました。　（小野なおみ）

９月になって日も短くなり、夜の礼拝となりました。月に一度の貴重な夜の礼拝です。礼拝に43名、その後の19時30分までの講話に39名の市民が参加されました。

― 福音主義とは何か ―

福音主義、または福音主義者とは誰を指すのでしょうか。これは宗教改革期の用語であり、教会の権威や既成の神学の枠にとらわれず聖書の教えそのものに聴き、その基礎に立って教会改革を進める人々のことを指します。つまり、聖書に記された福音（Good News）を第一に掲げるということです。東北学院の建学の精神は、宗教改革の「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育とあるように、聖書における福音がその中心にあります。

（吉田新）

礼拝後の講話「絵のように美しいタミーノ」概要

今、ラーハウザー記念礼拝堂は左のようです。しかし来年２月末にはステンドグラスの修復が終わって、ふたたび右のように元に戻され、昇天のイエスさまが見えるようになります。イエスさまは人として見えるから絵に描けるのです。神さまですら絵に描けるのですから、美しいものも絵に描けます。

しかし龍宮城は「絵にも描けない美しさ」といいます。有名な『星の王子さま』でも、サンテクジュペリは「かんじんなことは、目に見えないんだよ」と書きます。しかしモーツァルトのオペラ『魔笛』（シカネーダー台本）の３人の女たちは、美しい若者のタミーノをみて、次のように歌います。

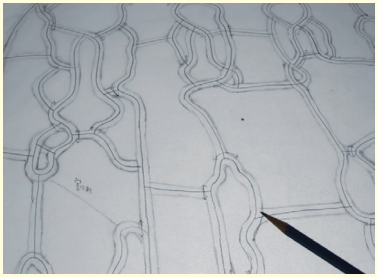
Ein holder Jüngling, sanft und schön	愛しい若者、やわらかくて美しい
So schön, als ich noch nie geseh'n.	とても美しい、いままで見たことがないくらい。
Ja, ja, gewiß! zum Malen schön.	そうそう、たしかに、絵に描きたいくらい美しい。

「絵にも描けない美しさ」から「絵に描きたいくらい美しい」へ。旧約から新約への展開です。神さまそして美を技術で表象（再現）する「美術」そして「芸術」はここに可能となります。

（鐸木道剛）

― ステンドグラス修復の進捗状況 ―

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂の「昇天」ステンドグラスは、８月４日に横浜の光ステンド工房に運ばれ、修復作業がはじまりました。修復作業はまず鉛桟の現状をトレスすることから始まります。鉛桟の巾をまずそのままトレシングペーパーに写しとりその後その中心線を探し、もう一度別の用紙に写し取り、再組立ての下図とします。９月中にトレス、下図が終わり10月からはいよいよガラスと鉛桟を分解する作業に入ります。細心の注意を払いながら組立て前の状態に戻し、ガラスの割れなどを確認していきます。（光ステンド工房代表　平山健雄）



ストーラー博士講演会「現代と福音―改革教会の実践から考える」報告

日時：2017年9月15日（金）18：00-19：45
場所：土樋キャンパス　ホーイ記念館ホール

米国プリンストン神学研究所所長ウィリアム・ストーラー博士を講師にお迎えし、公開講演会が行われ、80名の市民が参加されました。講演の中心的な主題は「昇天のキリストの教会的意義」。本学土樋キャンパス礼拝堂のステンドグラスに描かれる「昇天のキリスト」像の実践神学的な意義を再認識する内容となりました。昇天後もキリストが今日の地上を生きる私たちを執り成していてくださる恵みを知ることでキリスト教信仰に活力が芽吹くことや、現代の諸問題を近視的に捉えつつ、同時に昇天のキリストを遠視的に見据える「神学的二焦点レンズ」を備える必要性など、実践神学的な視座から、現代の教会を奮い立たせる格調高い講演が語られました。（原田浩司）

ストーラー博士と
通訳の飯田仰牧師（日本同盟基督教団）

ベオグラード大学での「中世主義」セミナー参加報告

2017年8月14日にベオグラード大学哲学部とベオグラード文化センターで、日本学・中世主義フォーラム（Јапанолошко－медиевистички форум）のセミナーとして「中世とは何か―東と西の対話（Шта је то средњи век：Диалог Истока и Запада）」が開催され、本学教授の鐸木道剛が参加した。鐸木は、中世の無名性が西欧と東欧ロシアおよび日本では意味が異なることを指摘した。（鐸木道剛）

ブランディング事業協賛の講演会のお知らせ

キリスト教文化研究所研究フォーラム2017
「歴史に学ぶ――宗教改革500年を前に」
2017年10月21日（土）13：00-16：30　土樋キャンパス 6号館5階 押川記念ホール
講演者：佐藤優（評論家）　佐藤司郎（本学教授）
申込不要、参加無料です

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：
学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信
第6号
2017年10月6日発行
〒980-8511　仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL：022-264-6405（研究機関事務課）
E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/